

その「目のゴロゴロ感」は錯覚かも？

眼科の医者として仕事をするということは…患者さんから「目に関する訴えを聞く」ことがまず最初の仕事、それに診たてをつけて「病名を診断する」ことが第二番目の仕事、最後に「薬や処置、手術にて治療をする」ということになります。これが文面のみを眺めていると「なーんだ単純じゃん！」と思われてしまいそうなのですが、相手が人間のためなのか、思った通りに単純に事を進められないのがこの仕事の難しいところです。そんな難しいケースの代表例の一つが、患者さんから「目にゴミが入ったかまつ毛が当たっている感じがします。取ってもらえばすぐに治ると思うので、取ってすぐに治してください。」と訴えられるケースです。単純にまつ毛が当たっているのであれば当該のまつ毛を抜いて「一丁あがり！」です。これならば患者さんも医者もハッピー！「また困ったらいつでも来てくださいね！」です。瞼の裏などにゴミ(ホコリや洋服の繊維のようなものが多いです)が入っているケースもゴミを取り除いて「これで大丈夫！」です。最初のケースと少し異なるのは、ゴミが長く居ついていると角膜(=黒目)の表面(=上皮細胞)に傷(=上皮の剥離)が付いていることがあり、傷があると三叉神経という非常に敏感な神経を刺激するため、たとえゴミが完全に取れたとしても1-2日間ゴミが残っているような感覚(=ゴロゴロ感・異物感)が続いてしまう事があります。ただ、この傷は必ず治りますので数日後には「先生の言った通りだったなあ」と患者さんに納得して頂けるはずなのです。こうしたエピソードからも分かることなのですが、実は「ゴミが入った感じ」という症状の原因には「本当にゴミが入っている、もしくはまつ毛のようなものが接触している場合」と「実際にはゴミは無いが、何らかの原因(黒目の傷など)により、**ゴミが入っているという錯覚**を起こしている場合」とがあるのです。この「錯覚を起こしたケース」というのはかなり厄介で、原因によってはすぐに治せない病態のこともあるため患者さんから「ゴミを取ればすぐに治る筈なのに…この先生はそんなことも出来ないのか！ヤブ医者だな！」と思われてしまうことがあるのです。しかも、この錯覚の原因にも様々なものがありまして…大雑把に挙げると①黒目の傷(前述)②ドライアイ③アレルギー性結膜炎(花粉症など)もし

くは感染性結膜炎(はやり目など)④眼精疲労(単純な目の使い過ぎ、老眼の初期、眼鏡調整の不適(左右バランスの不良など)、緑内障や網膜の疾患による視覚不良など)という感じです。①については一過性の病態ですので、慢性化するものは②-④(はやり目を除く)ということになります。特に④については筋肉痛のようなもので、「証拠」となる所見は一切無く診断が非常に難しいのです。年齢や視力検査の結果、重篤な眼疾患の有無、②と③の否定などで診断を下していくのですが、個人的には眼科医として非常に幅の広い見識を要する作業ではないかと考えています。更に「④によるゴロゴロ感」という診断に至った場合の対処法も複雑です。視覚に左右差が強かったり視力低下がみられるのであればその補正ということになりますので、眼鏡・コンタクトレンズの調整、場合によってはLASIKなどの近視矯正手術や白内障手術で治療をすることもあります。また、治癒可能な疾患であればその治療(眼瞼下垂手術などが代表格)をします。しかし、様々な理由により完全な治癒が不可能な状況もあり、そうした場合にはビタミン剤の目薬や飲み薬、目の筋肉の緊張を和らげる目薬や痛み止めの頭痛薬を使って治療します。また、その他の対処法として「目を温める」という方法があります。あくまでも対症療法ですので根治的な治療ではありませんが、薬剤を用いないため副作用がありません。また、わりと即効性があるため症状を素早く緩和できます。「民間療法的な対処法ですが、眼精疲労の異物感には目を温めてください」というアドバイスは、僕が常日頃から患者さんに説明をさせて



いただいている内容です。また「フジタガンカニュース」のバックナンバー(vol.2)にてこれに関連する文章を書いています。ご興味のある方はそちらもどうぞ。

携帯サイト用QRコード

<http://www.fujita-ganka.com>



Fujita Eye Clinic

藤田眼科

042
(645)
0575